

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和5年度第11回 理事会議事録

日時：令和5年11月20日（月）14:00-15:45

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、高橋 寛、竹下 克志、田中 信弘、
土井田 稔、永島 英樹、中村 雅也、西田 康太郎、根尾 昌志、橋爪 洋、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・波呂浩孝が議長となり、開会を宣して議事に入った。

1. 審議・決議事項

①. 前回の議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

②. 名誉会員の推薦について

福島県立医大の紺野慎一評議員の評議員辞任届を受理し、来年の評議員会終結の時までの任期とすることを承認した。

紺野評議員と前回理事会で辞任を承認した中村博亮評議員の2名を名誉会員に推薦し、一同承認した。

名誉会員の最終承認は、定例通り来年4月の評議員会とする。

③. 定款等検討委員会：学術集会規程、指導医規程、入会及び退会規程、定款変更案、評議員選出規程について

標記の4つの規程の修正案および前回理事会で修正案作成の依頼があった定款変更案を提案した。

評議員選出規程以外の、前回の理事会から持ち越しの3規程については新旧対象表を示し、他に意見や修正がないことを確認した。

また、定款の最終承認は評議員会であるが、第27条①-5:「12名以上16名以下」→「16名以上22名以下」の人数部分のみの変更で対応できることを説明した。

一同検討の結果、上記3規程および定款の変更案をすべて承認した。

評議員選出規程については、理事会推薦都道府県評議員以外の推薦評議員を選出する案（6条への追加案）を提出するとともに委員会で議論された内容を報告した。それに対して多くの意見が出されたが、女性評議員については今後増加するように支援する一方、正式評議員選考はそれにとらわれず公正に行

うことでは意見が一致した。
議論の結果以下の案で承認された。

第6条

- ③の後半の文章「そのうち最低2名の女性評議員をおく。」：削除
 - ⑫⑬（③に決められた女性評議員数に不足する分を補うことに関する条文）：削除
 - 追加の⑭⑮案（理事会推薦都道府県評議員以外の推薦評議員を選出する案）：理事長→理事会
 - 追加の⑯案（上記推薦評議員数の上限を規定する条文）：追加しない
- ※項目の番号は修正にもなっていない

④. 新技術評価検証委員会：PVP合同WGについて、経仙骨的脊柱管形成術（TSCP）（脊柱管内治療（ISCT））の取り扱いについて

PVP合同WGの立上げを提案し、メンバーは以下を希望した。委員会からは戸川委員が入り、その他4名は委員外の評議員である。

戸川大輔 委員・評議員

高橋真治 評議員

中前捻生 評議員

猪瀬弘之 評議員

星野雅俊 評議員

一同検討の結果承認した。

また経仙骨的脊柱管形成術（TSCP）（脊柱管内治療（ISCT））の取り扱いについて、今までの経緯等を示し、TSCP・ISCT WG の立上げと適正使用指針の作成を提案した。一同検討の結果承認した。

⑤. データベース委員会：JSSR-DB リスクカリキュレーター（RC） について、今年度予算の件

JSSR-DBにおけるリスクカリキュレーター（以下RC）について、これまでの過程・今後の工程・Pilot入力について説明した。

2024年4月には、RCのPilot入力を開始予定としてその対象施設に関して2つの選択肢が示された。

- ①脊椎脊髄外科専門医研修プログラム基幹研修施設内で登録症例数400件以上の施設
- ②評議員在籍施設（+症例数1000件以上の7施設とするか？）

以上について、多くの意見が出され議論された。

最終的にRCの必要性や有用性等についてJSSR会員に広く周知し、評議員在籍の施設に登録協力を依頼し、その結果で今後、学会としてどのように進めていくか検討することになり、一同賛同した。

またJSSR-DBの事業費のうち3階部分（今回は側彎症学会のデータベース）との連結システム構築において、当初申請の予算より多い見積もりとなった。しかし、当初予算内に含んでいた新技術DB開発費が現在運用しているJSSR-DBの中で登録可能で新たな開発が不要となったことで、3階部分と連結するシステム構築は名目は異なるが、当初の予算内で賄える。予算と名目が異なることと金額が大きいこと

もあり理事会で承認をしておきたいと発言し、一同検討の結果承認した。

⑥. メンバーシップ・コンプライアンス委員会：会員審査（10月分）

10月の入退会について全員を承認した。

⑦. 脊椎関連学会連携促進委員会：脊椎関連学会連携促進委員会にアドバイザー1名追加について

委員会にはSWJ役員の大半が委嘱されているが、SWJ監事である小森博達名誉会員が委嘱されていないため、小森名誉会員にアドバイザーとして加わっていただくことを承認した。

⑧. その他

学術集会プログラム等検討委員会

11月14日に委員会を開催し、第56回学術集会（川口会長・長谷川会長）のコンベンション会社は、提案金額の妥当性や担当者の対応姿勢などからインタープランとすることを委員会では決定した。

また、第57回（山田宏会長）の開催地は京都とすることを委員会では決定した。その結果、第56、57回と連続して京都になる。

一同検討の結果、委員会の決定事項を承認した。

専門医制度委員会

11月17日に脊椎障害医学会学術集会（大宮）にて今年度3回目となる専門医試験を実施し、91名が受験し全員合格した。一同承認した。

2. 審議・報告事項

①. 専門医制度委員会報告

専門医機構へ提出した概要や専門医数の資料について報告した。

また、日本整形外科学会（以下JOA）のホームページ内で、脊椎脊髄外科専門医について周知されたことを報告した。

②. 学術集会プログラム等検討委員会報告

JOA基礎学術集会時及び11月14日に開催された委員会の内容（第52回終了報告や第53回から55回の準備状況、趣意書の改訂提案など）を報告した。学会長を選定する際の貢献度の点数化の提案があり、具体的な方法を委員会内で検討したが、各項目の重みづけなど難しい点が多く、今後の会長立候補時には所信表明を提出してもらうことで意見が一致した。

③. 国際委員会報告

2024年が30周年の記念学術集会となるSAS（ハワイ）の抄録申込の締切が迫っている。今後、学会ホームページやニュースレター等で会員へ周知予定である。

④. 倫理委員会報告

下記の4つの研究計画書の変更を承認した。

1. (プロジェクト委員会)Meyerding 分類1 度腰椎変性すべり症に対する除圧術と椎体間固定術の費用対効果に関する検討
2. (データベース委員会)頸椎人工椎間板置換術手術のデータベース構築に関する研究
3. (データベース委員会)OLIF51™手術 (メドトロニックソファモアダネック社) のデータベース構築に関する研究
4. (データベース委員会)“XLIF®ACR®手術及びXLIF®THORACIC (ニューベイシブジャパン社) 手術のデータベース構築に関する研究

変更内容は、研究責任者の交代、研究施設の追加、学会理事の変更などの軽微な点である。

そのほか、頸椎後方術後外固定に関する研究は千葉大学の倫理委員会で承認されたとの連絡があった。ただ本研究に関しプロジェクト委員会への報告が十分でないようであり、研究責任者にその旨を連絡した。逐次報告しながら進めてほしい。

⑤. データベース委員会報告

JSSR-DB 2022年度・2023年度の年次報告の進捗状況を示した。

2022年度は2023年10月31日現在で、承認済みデータは158,330件。登録済みのデータを使った、委員会初の英文論文も作成が進んでいる。

2023年度分の登録数は11月1日現在で、71,519件となっている。

⑥. 指導医制度委員会報告

新規・継続・名誉申請者の審査状況を報告した。指導医規程改定についてホームページ等で会員への周知を予定している。

⑦. 広報委員会報告

JOA100 周年記念事業の動画作成を依頼された件を検討し、広報委員内の以下のメンバーを選出した。

今後JOA に提出すると報告した。

頸椎診察基本手技：大和雄 委員長

腰椎診察基本手技：鈴木秀典 委員

神経根ブロック：関口美穂 委員

椎間板造影：稲毛一秀 委員

仙骨裂孔ブロック：重松英樹 委員

⑧. 脊椎関連学会連携促進委員会報告

2027年の会場は現時点では未決定だが、10月20日に開催した委員会でコンベンション会社をJCSに決め現在各地の会場の空き状況の確認や見積を作成してもらっている。各学会の会長も早めに決定してもらえるよう要請の上、会長が決まり次第、迅速に会場決定に進む予定である。

抄録のフォーマットも学会ごとではなく統一したものを作成予定である。また、低侵襲系から希望があった個別の会長招宴については、原則会費制で行う。

⑨. その他の委員会報告

大正アワード選考委員会

渡辺雅彦委員長（会長）からの提案であるが、2024年の学術集会からアワードセッションを設けることに対応して抄録集に受賞者や講演抄録を掲載したい。そのため審査スケジュールを早めたいとして今後の選考スケジュール案を提示した。一同承認した。

⑩.その他

JOAの期限切れ学術集会ホームページが別団体等に利用された件

標記の件についてJOAの学術集会のホームページはJOAの事務局でドメインを取得して運用していたが学術集会が終了した後、期限切れになったドメインを、無関係な団体や法人に利用されたケースがあった。今後同様のことが起きないように、JOAではJOA事務局で学術集会のドメインを取得せず、コンベンション会社にドメインの取得から携わってもらうことになった。

モルヒネ髄注用体内植込み型持続髄腔内注入ポンプシステム適正使用指針の件

標記の指針についてのJOA理事会の議題で、JSSR理事会の先生方にも情報共有したいとして問題点を説明した。指針のなかの「実施医師基準」の項目に他の2学会とともにJOAが監修した”モルヒネ髄注療法の研修プログラムを修了していること”との記載があるが、JOAはこのプログラムには一切関与していない。

JOAの担当理事から本指針を策定した学会や企業へ問合せを行なったほうがよいとの意見が出された。

CSTの件

日本外科学会中心から日本医学会連合に移管したCST推進委員会事業の第三者機関として一般社団法人CST（仮称）を立ち上げ、日整会を含めた専門学会が社員となってCSTの倫理教育や実施管理をするシステムに変更となる。

・ 次回の理事会開催日：12月18日（月）14：00-16：00 Zoomにて

以上

令和5年11月20日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司